


地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らし暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		一人ひとりにこれまで生きてこられた生活を大切に、見守り寄り添う理念を作っている。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		理念を必ずしも毎日読んでいるとは言えないので、朝の申し送り前、今月の接遇目標と共にめぐみの理念も全員で声を出して読む事を徹底していく。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		めぐみ便りを月一回家族の人に。 又、季節毎に地域の人にホーム便りを配布したり、運営推進会議や家族会を開いて理解してもらえよう取り組んでいるが充分でない。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		地区の民生委員さんが自分の畑で作った野菜を多量届けて下さったり、ボランティアさんが利用者さんとお話し相手に気軽に立ち寄られる。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		隣接する老健との合同行事(あじさい祭り)時には地域の人にも沢山参加してもらい、地元の人々によるフリーマーケット、食事店、又、演芸など交流することに努めている。
			特別な住宅環境(隣は田んぼ、近くに民家は少ない)なので日常的な付き合いは難しいが近隣の人々に気軽に立ち寄ってもらえよう民生委員さん達にも協力を得る。
			町内会や老人会には参加していないが、商工会のお祭りや東風小学校の文化祭の見学に行っている。 地元の行事にこれからどんどん参加したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域高齢者への支援は現在行なっていない。		校区社協とも協力しながら役立つ事がないか訴え、グループホームで出来ることは貢献していきたい。
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価時、地域とのかかわりが少ないことを指摘されたので本年度は地域に開かれたホームを目指している。		めぐみ便りを定期的に地域に配るようにした。 又、職員に地域交流のアンケートを行い、可能な事は取り上げ実践していきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行い、敬老会や家族会にも参加してもらっている。		今年度から民生委員にも参加してもらい、アドバイスを受けている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者らと運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的な行き来はないが、市や市社協からの緊急的な申し込みに協力することもある。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	パンフレットを用意している。 入居時に家族に説明を行なっている。		現在制度を利用されている方はいらっしゃらないが必要になればアドバイスをを行なっていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理念に添ったケアをしているので虐待はない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだし解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>文章、口頭で説明し、理解、納得を得ている。不安、疑問点は面会時や家族会時などいつでも早急に返答できる様にしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居時、苦情等相談窓口の説明を文章で渡している。又、意見箱を設けたり家族会でも意見を出して貰うようお願いし、出た意見はきちんと対応している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月のめぐみ便りでホーム全体のことを知らせ、(ユニット毎に)又、利用者担当の職員より個別に報告するコーナーも設けている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を各ユニットの玄関に設け、意見・不満・苦情を自由に言ってもらっている。又、家族会を行うにあたって事前に個々にアンケートを送り無記名)家族会で意見を全員分発表した。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>介護会議、リーダー会議などを出してもらい、可能な限り反映させている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>可能な限り勤務の調整に努めている。勤務表を組む段階で分かっている場合は、必ず確保している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>人事異動は基本的には行なわないこととしている。新しい職員の場合は数週間サブで勤務について貰い、利用者に十分馴染んでもらうようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援			
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。</p>	<p>採用にあたっては特に性別などで断るようなことはしていない。</p> <p>各職員が得意な分野の係りを担当したり、レクリエーション等で個々の能力を發揮できるようにしている。</p>	
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>めぐみ内での介護会議、ユニット会議、又、隣接する老健との合同勉強会など、時に応じて行なっている。</p>	
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>福岡県グループホーム協会に登録し、地区ごとの研修、勉強会に積極的に参加を勧めている。</p> <p>その他の研修にも勤務内で行ける様に勤務表を組んでいる。</p> <p>隣接する老健と合同の全員参加の勉強会を年三回行なっている。</p> <p>又、看護協会の主催する講習(救命法、接遇など)にも参加している。</p>	<p>研修に全員が参加することは困難なので介護会議の際に参加した職員が口頭、または文章で内容を伝達している。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループホーム協会のCブロックの勉強会の会場を各グループホームで順番に行なっている。又、お互いの施設を相互に一日ががりで訪問・見学させてもらっている。</p>	
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>リーダー会議を設け、各ユニットより代表の職員に一人ずつ出してもらい、介護会議では出しにくい、スタッフの要望を聞くようにしている。</p> <p>年3回、食事会を催している。</p>	
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>職員一人ひとりに担当する係りがあり、責任を持ってホームの運営を担っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり受けとめる努力をしている</p>	<p>面接時、本人と話と聞く機会があるときはしっかり受け止める努力をしている。</p>	<p>家族からお話を聞く事は多いが本人としっかり話せるのは、入居後が多い。早い段階での聴取を努力したい。</p>
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり受けとめる努力をしている</p>	<p>見学时、契約時にお話をよく聞くようにしている。</p>	
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>初期、家族との面会時、本人・家族の希望をしっかり聞き出し、一番必要なサービスを提供できる様努力している。(例えば他病院でのリハビリなど)</p>	
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に必ず当めぐみでの生活を家族と一緒に見学してもらい、本人が納得した上で入居して頂く様、家族の方に説明、お願いしている。</p>	<p>入居直後、本人が当ホームに慣れるまで家族の方に泊まってもらっているため、これからも続けていく。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>長年生きてこられた知恵や経験をめぐみ内で発揮してもらっている。(例えば男性職員が料理上手な入居者に教えてもらったり、花や野菜の育て方を教えてもらったり)</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	色々の場面で家族の方の協力を得ている。例えば病院の受診、薬取り、日常生活品の補給など、家族にお願いしている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	家族の方にめぐみへの出入りを多くしてもらう様な機会づくりを心掛けている。(家族会、敬老会、催し物の案内、遠く離れた娘さんには葉書での文通等)		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	家族の出入りだけでなく、親戚、知人も多く出入りされている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わら合い、支え合えるように努めている	利用者一人ひとりの個室があるものの食堂で過ごされていることが多い。又、上手にまとめてくれる利用者さんが居る。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院に入院になった場合でも常に見舞いに行ったり、ご家族にも心配事、相談ごとにはいつも相談にのることを伝えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>現在入居者は女性ばかりなので、掃除の得意な人、料理の得意な人、中には歌が得意で皆をなごませてくれる人、お互いに支えあいながらの生活をしている。</p>	
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>若い頃絵が上手だった人は居室に絵を飾り、ご主人との生活を大事にされていた人は亡くなったご主人の写真の前に毎朝水をあげたり、個々の生活を楽しんでいる。</p>	
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>食堂で一日中過ごすのが好きな人、居室でのんびりと自分の時間を楽しむのが好きな人、帰宅要求激しく外に出たい人。それぞれの人の状態把握に努めている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族、複数の職員の意見を参考にケアプランをたてている。</p>	
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>三ヶ月に一度見直しを行い、現状に即さない場合は早めの新たなケアプラン作成を行なっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の日々の介護記録をきちんと記入してケアプラン作成時役立てている。		申し送りノートを作成して、重要なことは記入し、読んだ人はサインしている。
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別対応している。(外出、買い物)		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的(2ヶ月に1回)に消防訓練を行なっている。運営推進会議に民生委員、地域包括支援センター職員に参加してもらっている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在利用している方はいないが以前家族の希望でサービス事業者を利用して通院介助をお願いしていた。		これからも必要に応じて行なっていきたい。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	色々な場面で地域包括支援センターとは協力している。(支援センターの要請で要支援の利用者の受入れなど)		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医に受診していただいている。どうしてもかかりつけ医がない場合は当ホームで紹介している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	本人のかかりつけ医、主治医に変化時、電話とか文章で相談にのってもらっている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者の一人は准看護師であり隣接する老健の師長と連携を取り、常に利用者の健康状態を把握している。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	認知症の為に病院側より早期退院の相談があった場合（これまで4回程あり）すぐに利用者の受入れに対応している。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族会で家族の方に説明している。 主治医との話は入居者全員出来ているとはいえない。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	まだそのような事例はない。		必要になれば行なっていきたい。
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住する際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族やケア関係者、及び出来れば主治医も含め十分話し合うようにしている。新しい居所の下見を家族と共にすることもあ。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	めぐみの理念に添って本人の自尊心を傷つけない様に、又、羞恥心にも配慮している。カルテ、介護計画書など、個人情報には十分に注意して取り扱っている。	
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたりわかる力に合わせた説明を行い、自分で決めた納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の意思を尊重し、希望や思いを可能な限り支援している。	
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事、入浴、レクリエーション等の日課で生活のリズムが取れるように声かけは行なうが、体調不良時などは無理強いはいしていない。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容、美容は本人が希望する店に家族が連れて行くことは可能。特に希望がなければ隣接する施設で毎週1回理美容院のサービスがある。	
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じて食事の準備や片付けを分担して行なっている。	そうめんちり(郷土料理)、ひな祭りに散らし寿司、土用のうなぎなど作っている。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコを吸われる方はいない。酒は毎回は無理だが、行事の時、(敬老会、あじさい祭りなど)に飲んでもらっている。飲み物(ロ-ヒ-など)、おやつは出来る限り本人の希望に添って出している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンをつかむ為記録をしっかりと行なったり、汚染の多い利用者はトイレの周期をつかみその時間帯に合わせてトイレ誘導をしている。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決められているが、(火、木、土)入居者の希望する順で入ってもらうことはできる。		入浴日を本人希望にというのは無理だが一人ひとりゆっくりと入浴を楽しめる様に、プライバシーを守った入浴支援に取り組みたい。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	休みたいときは休んでいただき、夕方から夜にかけては緑茶をカフェインのない麦茶にするなどの工夫をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクリエーション、行事といった皆で楽しむこと以外にもドライブ、散歩、買い物などで気晴らしを行なっている。又、個別対応でその人の出来る役割を把握して、イキイキと生活していただける様支援している。		その人らしい生活が継続できるように適切なアセスメントをしてケアに取り組む。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力に応じて所持金を持ち、買い物に行かれるが、全員ではない。		買い物の支払はなるべく自分で支払ってもらう様にしている。これからも続けていきたい。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	可能な限り本人の希望に添って散歩、ドライブ、買い物に出かけるが、日課の都合上どうしても行かれないこともある。		外出の機会を増やしていきたい。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	個別対応は行なっているが、外食、買い物などは家族との金銭的相談も必要な為難しい面もある。個人的に無理な場合はバスバイクや地域の祭りなどに数名で参加できるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や本人の希望があれば支援している。 認知症が進み字が書けない場合、そばに一緒に付いて、字を教えながら、見守りしながら書いてもらっている。		遠くに離れている家族と認知症の親とを結びつけ、大変喜ばれることなので、今後も続けて行きたい。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の方が来られると笑顔で挨拶し、お茶を出したり声をかけをし、くつろいで頂けるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束帯、拘束服などの身体的拘束は行っていない。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵をかける事は行動範囲の拘束であるという事は全員承知しているが、危険防止の為に家族会からも鍵をかけてほしいとの要望あり。居室ドアの鍵は利用者の自由である。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーを害さない様にして、所在確認を常に行なっている。ちなみに今月の接遇目標は「安全への配慮」である。		レクリエーション、おやつの声かけ、夜間巡視などでこれからもさびげなく見守りをしていく。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	完全に取除くのではなく、危険である場合は場所を変えてみるなどして、様子を見ながら行っている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会や、研修、避難訓練などに取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成している。 その都度確認し、話し合っている。 吸引器の使い方等は度々練習している。		老健との合同勉強会で緊急時対応の勉強を月、数回行なっているので続けていく
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている	火災の場合の避難訓練は消防署にも協力してもらい定期的に(2ヶ月に1回)行なっている。 地震、水害等の災害時の話し合いはしている。		災害食の備えをしている。 IH調理器具のため、カセットコンロを用意している。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族に対して予測できる危険性についての説明を行なっている。又、対応策もスタッフで話し合っている。		対応策はカンファランスで話し合っている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、排便の有無、朝の申し送り等で変化や異変があれば主治医に連絡を取り、指示をもらっている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明をもらっており、利用者個人個人のカルテに綴じ、いつでも見られる様にしている。又、薬に変更があった場合は、申し送りノートに書いて、全員が分かる様にしている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝排便の確認をし、水分補給や散歩、体操、食べ物に気を配っている。 便秘や、便秘傾向の人には主治医と相談し、下剤を服用してもらっている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝、夕食後、口腔ケアを行なっている。利用者の能力に応じて一部介助、全介助、見守り等を行なっている。入れ歯洗浄剤も使用している。又、家族の希望により、歯科往診(居宅療養管理指導)にも来てもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、摂取カロリーを明確にする為、メニューは業者に依頼し、ホームで調理している。 水分摂取には特に気を配り、全員に午前10時、入浴後、昼の3時も水分補給促し、各居室にも朝、夕2回必ず配茶している。		現在自分で好きなときに勝手にお茶を飲むことが出来ない ので、常にテーブルにお茶を用意して自由に飲めるように していきたい。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ流行時にはスタッフ、入居者全員予防接種を受けている。うがい、手洗いの励行。 汚物を扱う時ゴム手袋は必ずする。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夕食後、ふきんは熱湯に浸し、漂白剤で消毒を行い、まな板は肉、魚、野菜で使い分けている。 食事は毎日業者に新鮮で安全なものを配達してもらっている。 食器乾燥機を使用している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に季節の花やベンチを置いたり、手作りの看板を設置して、利用者や家族の方に安心して出入りしてもらえるようにしている。 しかし近隣の人にとって親しみやすい工夫は出来ていない。		近隣の人にも親しみやすく、安心して出入りできる様工夫したいが、周りが田んぼと交通量の多い道なので難しい。 何か工夫する必要がある。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂から自由に入出入りできるベランダには季節の花や野菜を植え、利用者さんと一緒に水やりをし、洗濯物、布団も干し、生活感が十分にある。食堂とベランダの境の窓も大きく外の景色も良く見え、居心地良く過ごせる。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他の利用者さんからは見えない、独りでもゆっくりに出来る場所がある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の中にある生活用品は、今まで利用者さんが使い慣れたものを家族の方に持ってきてもらっている。		
86	換気 空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇は常につけたままにしており、部屋を掃除する時は天気がよければ窓をしばらく開けている。又、気温の状況によって、エアコンの使用を行なっている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、風呂場など、あらゆる場所に手すりを付けている。車椅子用にトイレのドアをカーテンに付け替えた。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの能力に合わせた声かけを行ない、目配り、気配りを行ない、その人が出来る役割を見つけて安心して生活出来るように支援していきたい。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるように工夫している	ベランダや玄関外の花への水やりは毎日、利用者さんとスタッフとで行なっている。玄関外にベンチを置き、くつろげる様にしている。		

.サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の 2/3 くらいの	
		利用者の 1/3 くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の 2/3 くらいと	
		家族の 1/3 くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の 2/3 くらいが	
		職員の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の 2/3 くらいが	
		家族等の 1/3 くらいが	
		ほとんどできていない	

【時に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

インフルエンザの流行前(10月～4月)からうがい、手洗い、消毒などを徹底し、利用者、職員、面会者全員で取り組んでいる為、インフルエンザに感染した人はいない。利用者の方たちは認知症のためうがい薬を間違えて飲み込んでみても害のないよう紅茶を使用している。今年度より消防訓練を2ヶ月に一度行なっている。(夜間帯を設定して)回想法を取り入れ、これまでされていた生活(料理準備、片付け、茶碗洗い、縫い物、掃除など)をその方の能力に合わせどんどんしてもらっている。又、そういう事の困難になった方なりの喜びを見つけて大いに感謝し、褒め、笑顔が沢山見られるよう気配りをしている。